

アクションカードを活用した 災害時初動体制の確立に向けた取組

～災害対応に強い組織・人材育成を目指して～



気仙沼保健福祉事務所（気仙沼保健所）

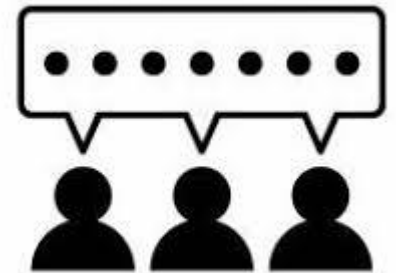
保健所長	照井 有紀
技術副参事兼技術次長	田代 光美
企画総務班 企画員	小野寺 広太郎
主事	村上 明花
成人・高齢班 技師	渡部 和馬
技師	荒木 真央
○疾病対策班 技術主査	奥川 玲子

取組のきっかけ

- H29.5.27災害時健康危機管理支援チーム(以下、「DHEAT」という。)養成研修[基礎編]への参加
保健所長1名(ファシリテーターの役割)
保健師2名(技術主査, 技師)
- 災害時の保健所危機管理体制の構築について学ぶ



「うちの事務所は動けるか・・・？」
「動けなくないか・・・？」



気仙沼保健福祉事務所の現状①

- 職員の約半数が平成23年度以降採用
職員数：正職員42人
(非常勤職員8人、臨時職員2人)

★H23年度以降新規採用職員：20人

- 若手職員が多い

平均年齢：38.6歳 (H29.4.1現在)



大規模災害発生時の対応について
イメージを持ちにくい職員が多い

気仙沼保健福祉事務所の現状②

- 仙台地域に自宅や実家を有する職員が多い

→ 週休日等に災害が発生した場合
限られた職員で対応をせざるを得ない

- 被災沿岸地域の事務所である



→ 被災経験・教訓を活かした災害対応が
求められる(暗黙の期待)

初動が大事だ！！

6.12訓練では被害
状況どこを確認すれ
ばいいか不明だった

アクションカード
あるといいな！



研修の学びを
職場にフィード
バックしよう！

問題意識を共有

参集できた限られた人員で、必要最低限の
災害時初動対応ができるようにしよう！

Plan: 計画

- 今年度中に**所内災害時健康危機管理研修会**を実施する。
- 研修会開催について**所内企画会議**（総括以上の会議）で合意形成を図る。
- **管理職編**と**一般職編**の2段階で実施する。
- 演習を中心に実施する。（動いてイメージする。）
- DHEAT養成研修の演習資料を活用する。
- DHEAT養成研修に参加した保健師2名がファシリテーターをする。
- 管理職編・一般職編終了後、**所全体研修会**を企画する。
- 研修結果を**所大規模災害時対応マニュアル**へ反映する。



3人がいるうちに！

ポイント

- ① 組織図に人を貼付けて役割分担を明確化
(指揮系統の明確化)
- ② 予め準備した**アクションカード**を使用することで、
誰でも具体的な指示命令ができるようにする。

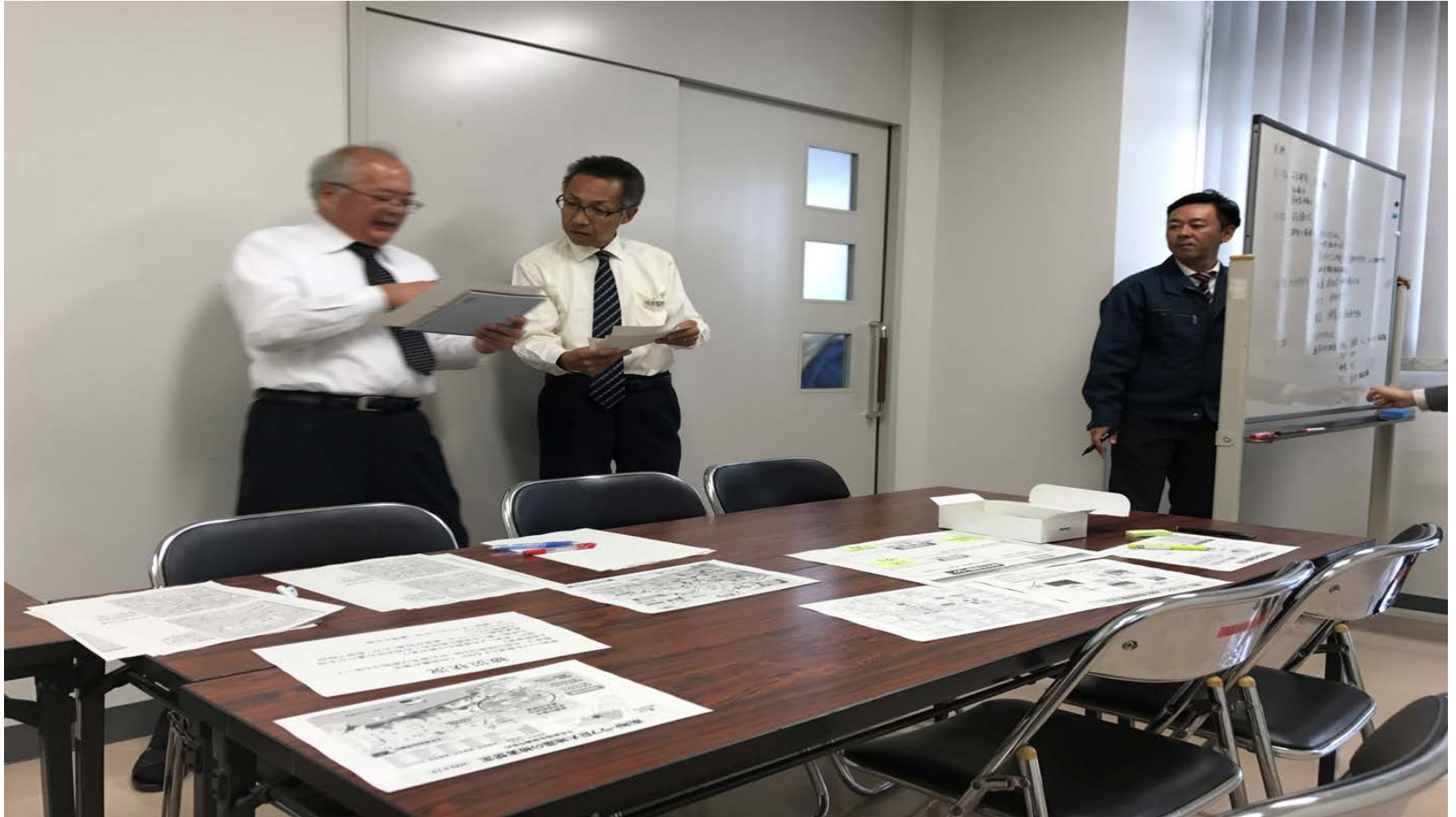
アクションカードとは？

緊急時に参集したスタッフの「行動指標カード」
効率的・効果的に緊急対応を行うためのもの。

★減災対策の一つとして整備することが有効



Do:実行① プレ管理職編(H29.10.4)



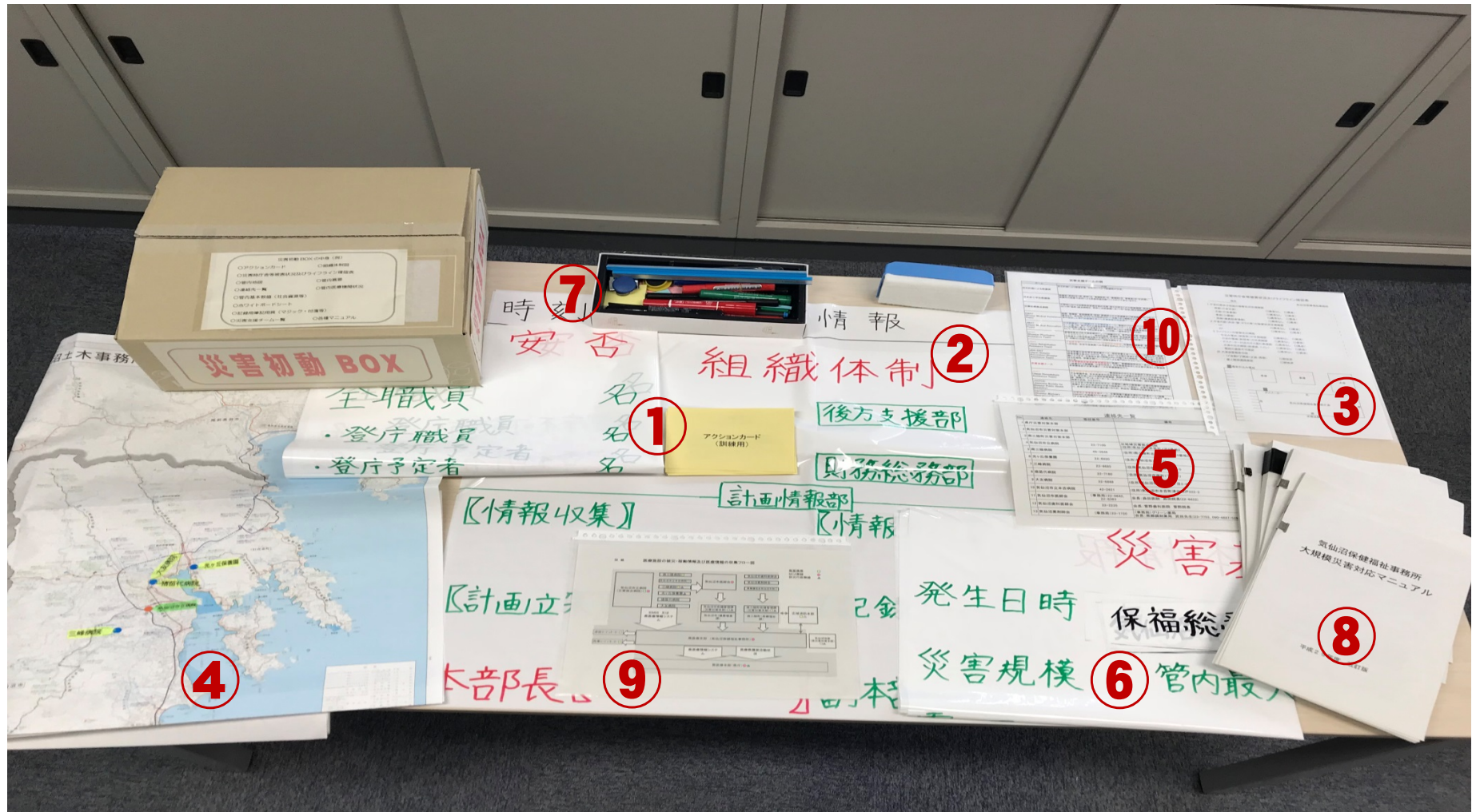
- 対象者:3名(副所長、企画総務班長、企画員)
- DHEAT演習の資料をそのまま活用し実施した。

Action改善 → Do:実行② 管理職編 (H29.10.24)



- 対象者：10名（事務所長、副所長、所総括、部総括2、企画総務班長・班員2）
- DHEAT演習の資料（情報）を管内バージョンへ。**災害初動BOX**も準備。

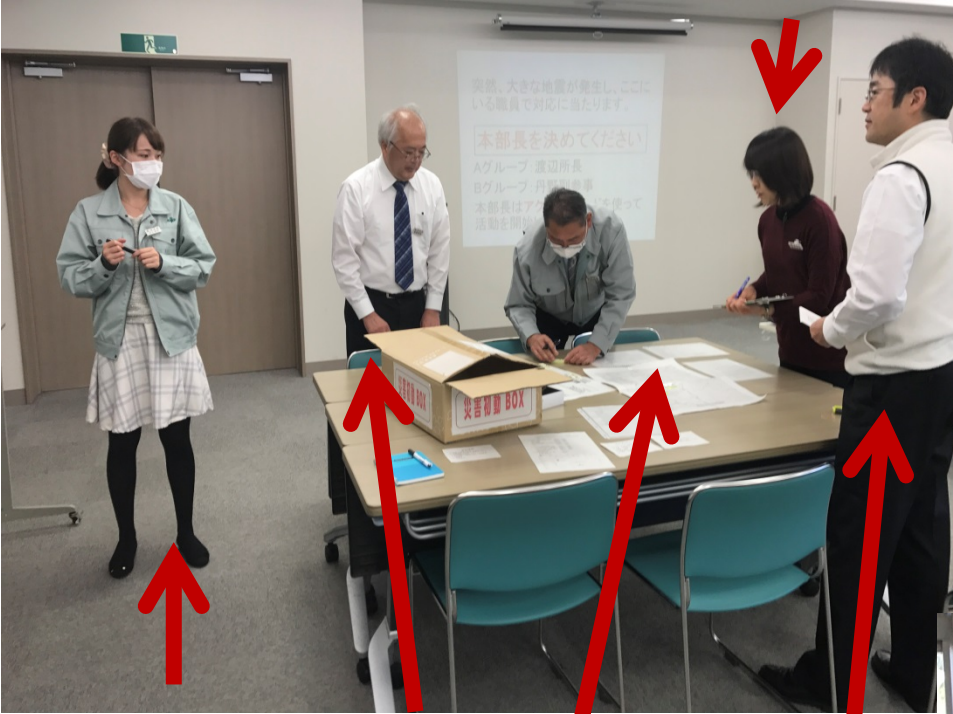
初動BOX(暫定版)の中身



- ① アクションカード
- ② 組織体制図
- ③ 被害状況・ライフライン確認票
- ④ 管内地図
- ⑤ 連絡先一覧
- ⑥ ライティングシート(項目記入済)
- ⑦ 筆記用具
- ⑧ 各種マニュアル
- ⑨ 医療情報収集フロー図
- ⑩ 災害支援チーム説明一覧

※その他避難所一覧・管内基本数値(社会資源)等々, 必要な物を追加予定

合流職員



- ◆ 2班（1班5名）で構成
- ◆ アクションは計10個
- ◆ アクションの途中で職員が合流する設定
- ◆ ファシリテーターが適宜コメント・アドバイス
- ◆ アドリブを投入（マスコミ記者が突然来所）

クロ/ロ係 連絡係 本部長
(記録)

- ◎ 終了後に「災害対策本部立ち上げ初動訓練チェックポイント」で振り返り
- ◎ ファシリテーターから講評
- ◎ アンケート配付（自由記載・全員回答）



Check: 評価 管理職編アンケートから

- クロノロは慣れ(トレーニング)が大切。1人は大変。
- ライティングシートに記載項目を整理しておくとい。
- アクションカードは1枚に1アクションがいい。
- 本部長から指示を受けた本部員用の指示受けカードもあるとい。
- アクションカードをこなすだけではいけない。
- 組織体系図の付箋の活用が良かった。
- アドリブいくつか作っておいたらどうか。
- 実践的な訓練で良かった。繰り返しやるべき。
- 初動BOXを全体で整備できると良い。
- 情報を実情に合わせた方がいい。

※その他多数意見あり



→ 一般職編は内容をさらにブラッシュアップ！
研修企画メンバーを増やそう！
新たにファシリテーターを育成しよう！

Action:改善・Do実行③

一般職編 (H30.1.9 & 1.16)



- 対象者: 班長以下職員全員。総括以上は合流職員や避難者役として参加。
- 全職員が参加できるように2日間で実施。
- アクションカードやクロノロなど管理職編のアンケート結果を反映した。

ファシリテーター

本部長

クロ/ロ係

クロ/ロ係

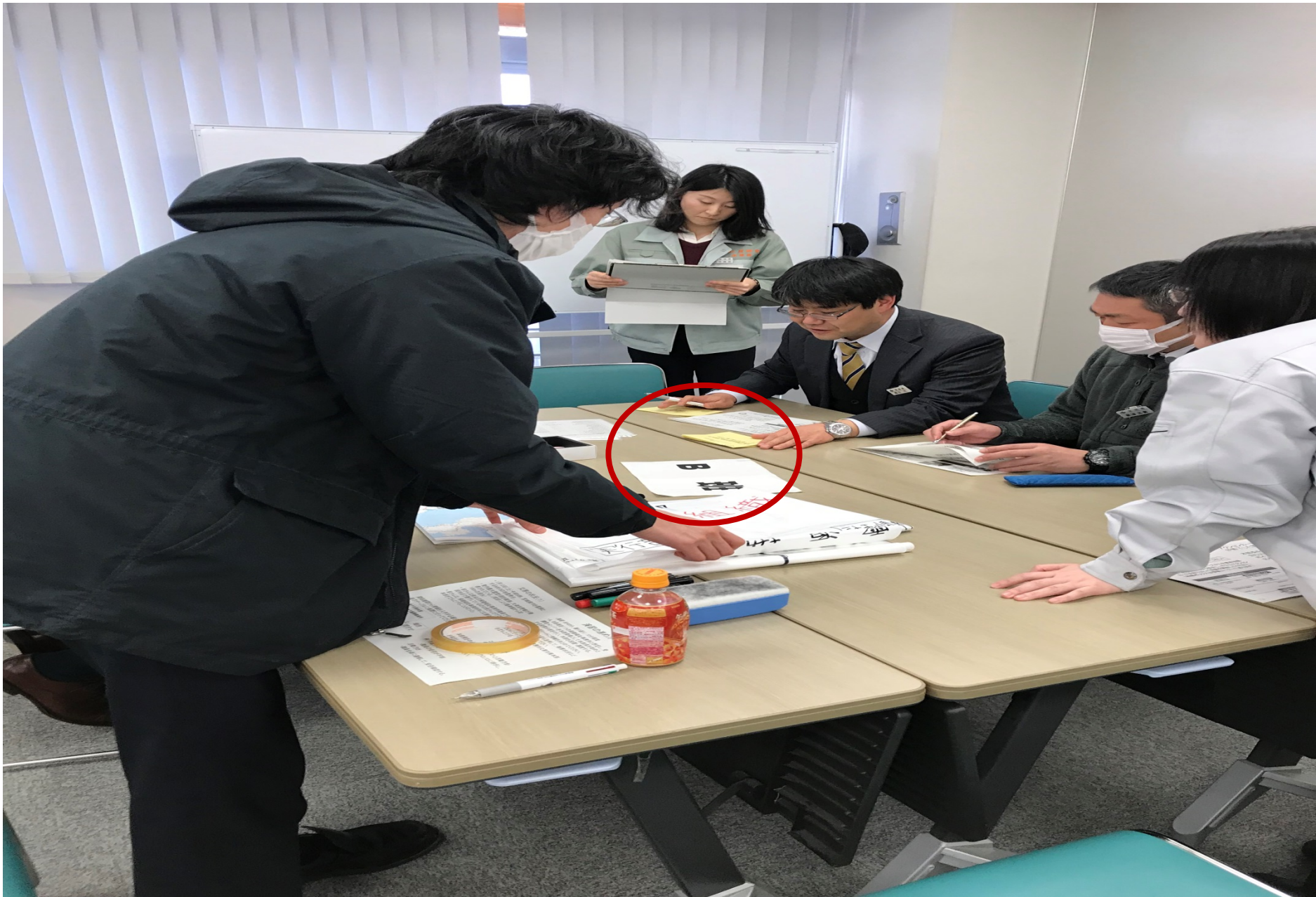
副本部長

連絡係

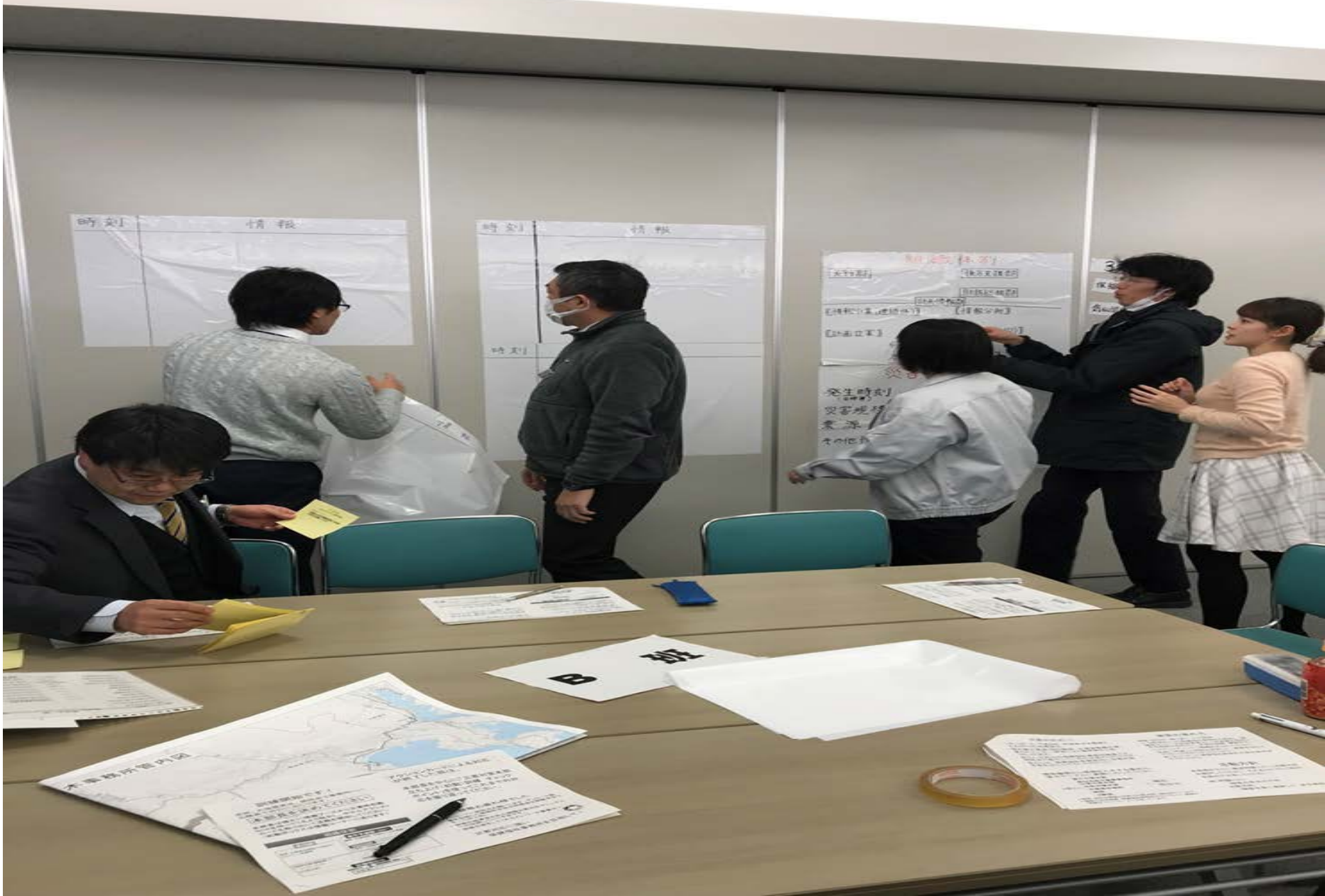
連絡係

本部要員全員で災害初動BOXの中身を確認中





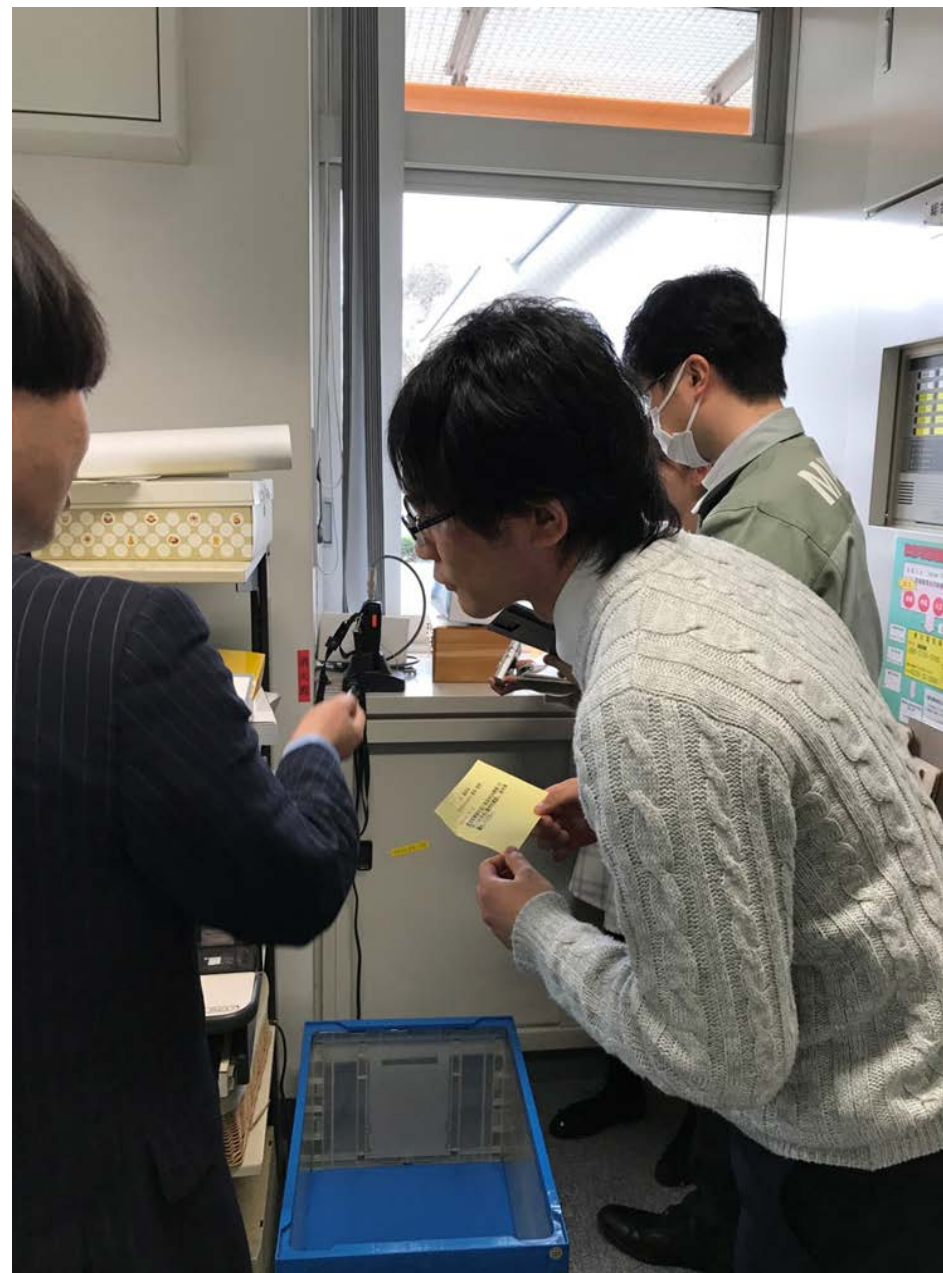
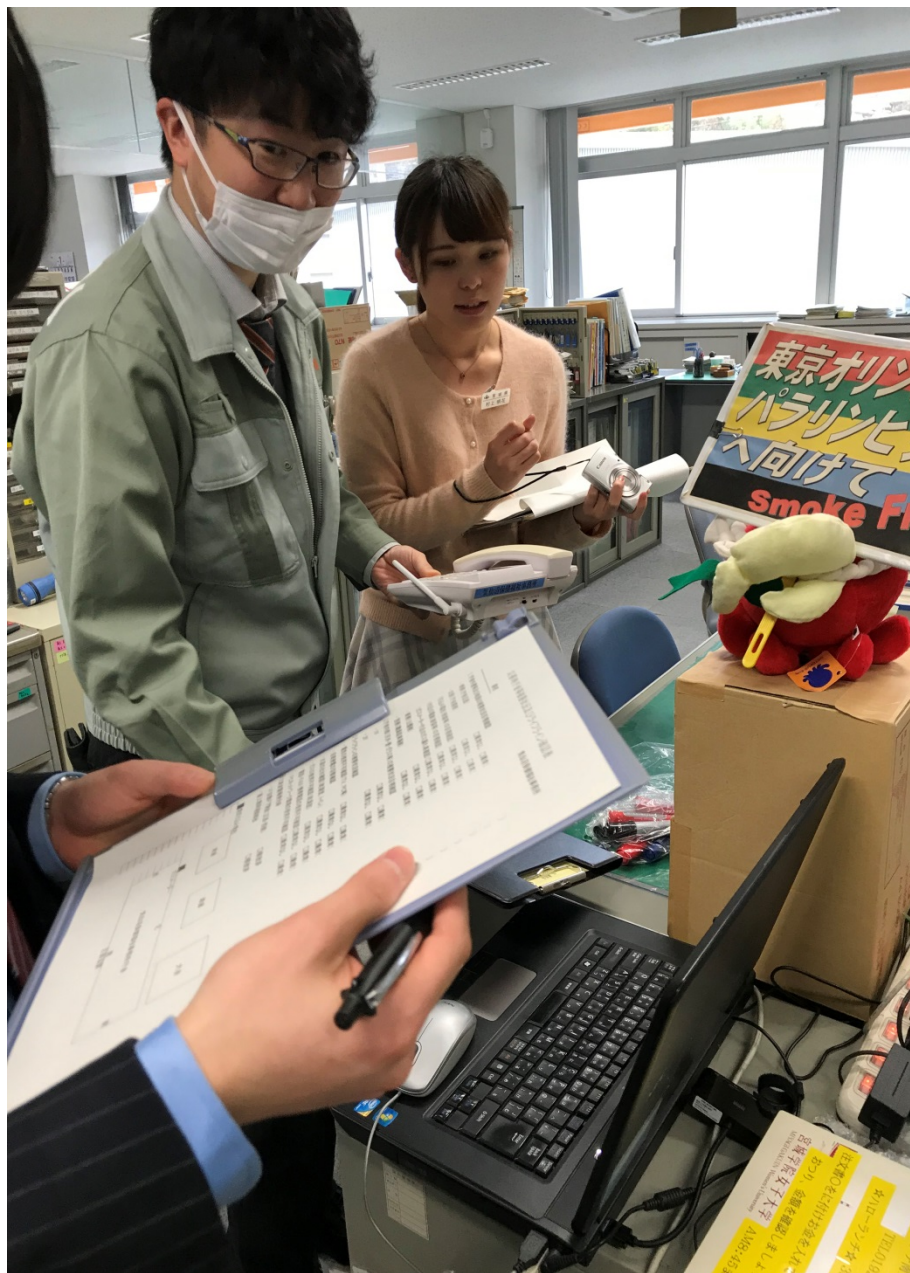
本部長がアクションカードを使い指示開始！！



初動BOXからライティングシートやマーカー等を取り出しクロノロ開始



庁舎被害状況及びライフラインを確認



通信機器の所在と使用可否を確認（IE電話とMCA無線）



災害対策本部を立ち上げたことを関係機関へ報告
関係機関から情報収集



集めた情報を管内地図にマッピング



所属長が登庁→本部長交代



新本部長がアクションカードで指示

時刻 情報

10:45 「災害対策本部立ち上げ」(気山沿HCの本部長 由井班班)

10:47 職員及心避難者の安全確認済

10:50 ① 庁舎の被害状況はカニン。ワイヤライ(電線、ガス水道) → 自家発電 (古川)
 11:00にカニン

10:56 MCA無線の使用可能 (備蓄線路と病院)
 IE電話は電源があれば使用可能
 ↳ 使用可 → (11:00 カニン(古川))

11:00 ワイヤライのカニン済 (自家発電のみ使用可)

11:02 建物破損状況のカニン済

11:10 丹野総括来所 (登庁8、予定32)

11:16 被災者2名来所 (O₂ボンベ必要)
 猫猫苗代病院 4階に漏水
 尖ヶ丘保護園 入館不可

11:20

建物破損
 ・外壁に亀裂が入って
 ・駐車場に深い亀裂が
 ・2Fの窓ガラスが割れ

(これは訓練です、日曜の紙を本部へ持ち帰)

水務所管内図

「災害」情報

発生時刻 (時間)

「被害」情報

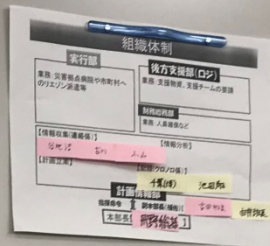
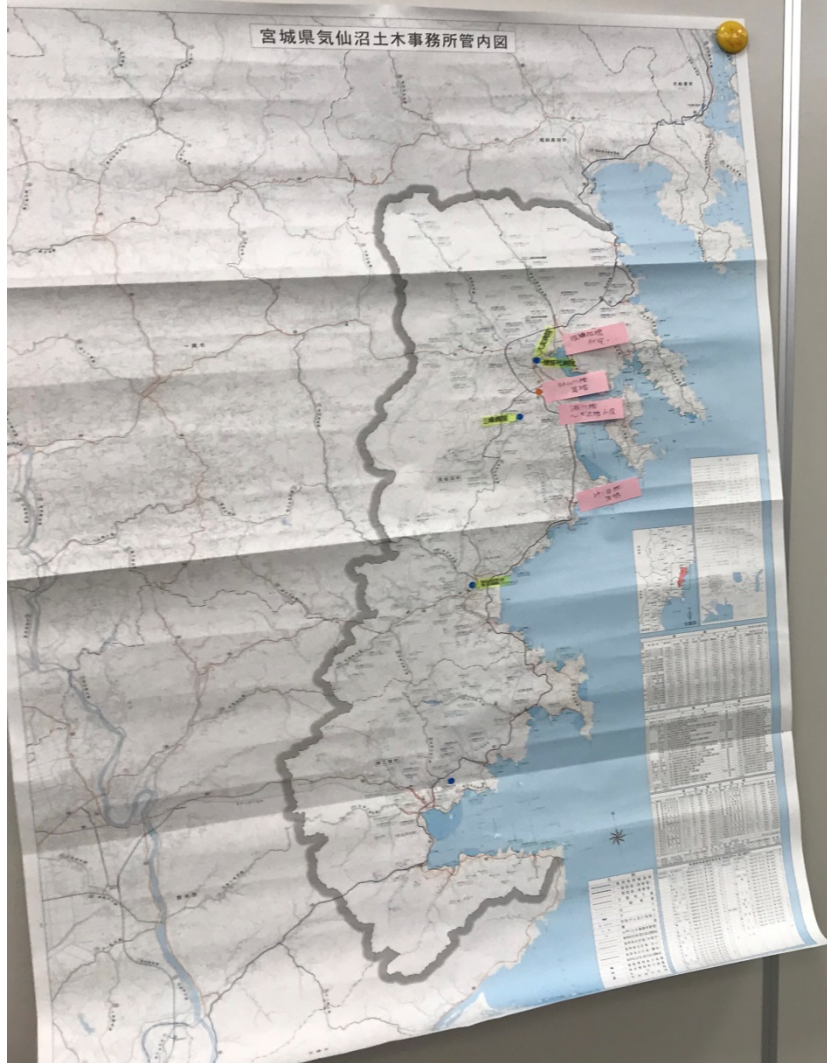
震源地

その他情報 (例: 11:00にカニン済、11:02にカニン済、11:10にカニン済、11:16にカニン済、11:20にカニン済)

不可 5分 不可 10分

シ

クロノロ中・・・とにかく意外と難しい



災害基本情報

発生時刻 (日時等) H30. 11月13日(土) AM 9時

災害規模 管内最大震度 5弱 M 9.0

震源地 宮城県沖

その他情報 (職員、避難者の安全等)
 全 50名 登庁 7名 登庁予定 33名
 不可 5名 安全不明 3名
 エムティ仁良 無し

保福総務課

11:06

小情報

災害対策本部は、仙台市役所内から15時15分に報告

ライフライン

- ガス 復旧不可
- 水道 復旧不可
- 電気 停電→自家発電稼働
- 電話・FAX 復旧不可
- 携帯電話・ネット回線 一部復旧

【工事進捗状況】
 11:06現在、仙台市の復旧状況は、
 管内全地域にわたって(ほぼ)完了。

建物被害状況

一部に被害が入っている。
 一部に二重被害が入っている。
 一部の建物の被害状況は、
 調査中。

被災状況
 被災状況は、
 調査中。

時刻	情報
10:43	災害対策本部より上野(仙台市役所)へ報告
10:47	被災者への避難指示
10:50	①庁舎の被害状況の確認(仙台市役所)へ報告
10:56	②MOC無線の使用可能(仙台市役所、東北) ③ISD無線の使用可能(仙台市役所)
11:00	④庁舎の被害状況の確認(仙台市役所)
11:04	⑤避難指示の解除(仙台市役所)
11:10	⑥庁舎の被害状況の確認(仙台市役所)
11:16	⑦被災者への報告(仙台市役所)
11:20	⑧被災者への報告(仙台市役所)

クロノロあれこれ



振り返り

取り組む中での工夫

- できるところからやってみる！ DHEAT養成研修に資料をベースにスタート。
- その都度振り返りを行い、管内の実情に合わせた資料に作り替え、より実践的な内容にブラッシュアップした。
(PDCAサイクル)
- 所内企画会議に諮り、所属長や管理職のコンセンサスを得たことで、事務所としての取組として確立させた。
- 継続的な取組とするため、人材育成の観点から、研修企画メンバーを徐々に増やした。

組織全体として
の取組

チームワーク



人材育成

結 果

- 多くの職員から「訓練を繰り返すことが必要」、「違う役割をやってみるのも大切」、「予めクロナロ項目を整理しておいた方がいい。」など複数意見が上げられた。
- 事務所としての体制の不備も明らかになった（連絡手段の不足、周知の不足等）。
- 訓練にアドリブ（避難者の登場等）を取り入れることで、地域住民等に対する臨機応変な組織対応のイメトレもできた。
- 職員全員参加型の実践的な初動訓練を通して、平時からの準備の必要性や訓練の積み重ねが重要であることを実感できる研修となった。



考 察

- 職員一人一人の意識啓発・対応力向上のためには、平時からの準備と訓練の繰り返しが重要。
- アクションカードや初動BOXの検証・見直しが必要。
- 訓練を積み重ねることで、役職・職種に限らず、災害時に「動ける職員」を育成できる。
- 減災対策として、平時から災害時初動体制について戦略を立てておくことが初動時の混乱を最小限に食い止めることができる。
- 組織運営・危機管理を確立させることは災害急性期だけでなく、慢性期・回復期にも活動の基礎となる。
- 災害時健康危機管理に強い組織・人材となることが、県民対応や関係機関との連携の上でも重要である。

ご清聴ありがとうございました

